

全国中学生大会

2016年8月13、14日の2日間、大阪府・守口市民体育館において、「第10回全国中学生少林寺拳法大会」が、初めて少林寺拳法発祥の地香川県を離れて開催された。大会テーマ「才能開花～日々の成果！！～」の下、無限の可能性を秘める種子である中学生拳士が全国より結集した。(439校 899名)

中森清徳全国中学校少林寺拳法連盟理事長の開会宣言に続けて、鎮魂行が主座・大阪府矢田西中学校高橋希実、打棒・大阪府下少林寺拳法部員4名によって行われた。同連盟吉田晋会長、大会副会長大阪府中学校少林寺拳法連盟山本哲哉会長、名誉副会長西端勝樹守口市長より挨拶を頂いた。当日欠席された総裁からメッセージが届き、司会が代読した。

選手宣誓は、大阪府・中野中学校西野倖生、藤原咲良選手によって、堂々と元気よく行われ、二日間にわたる熱い大会が開幕した。

大会初日は、男女の単独演武、組演武、団体演武の予選が行われ、各コートに大きな気合いが響き渡り、演武終了時には讃え合う大きな拍手が送られていた。予選終了後、高校に行っても少林寺拳法を続けようというアピールが近畿高体連専門部より行われた。また同日夜刻から、太閤園にて指導者の集いが開催された。

2日目は、午前中に今大会から導入された準決勝が男女単独演武、組演武において実施され、午後より各種目の決勝が行われた。準決勝を見事通過した気迫のこもった演武に、手に汗を握り、会場は熱気に包まれていた。

競技終了後、大野木憲三審判委員長による総評に続き、上杉嘉紀指導員による技術講習が行われ、基本諸法の確認と技術を通しての中学生拳士の交流が深められた。

閉会式では、川島一浩少林寺拳法連盟会長による挨拶に続き、成績発表、西下貴士実行委員長による謝辞、池田元宏総務委員長による閉会宣言が述べられ、守口での熱い2日間が閉幕した。

今大会にスタッフとして協力頂いた各団体に衷心よりお礼申し上げ、次回開催地石川県にバトンタッチしたい。

*写真は次ページをご覧ください。







